

歩掛参考見積募集要領

見積名称：浦山ダム清水バイパス補修設計業務（仮称）

見積名称：浦山ダム副ダム管理用道路補修設計業務（仮称）

次のとおり歩掛参考見積を募集します。

令和8年10月8日

独立行政法人水資源機構

荒川ダム総合管理所

所長 山中 充治

（公印省略）

1. 目 的

この歩掛参考見積の募集は、荒川ダム総合管理業務で予定している業務の積算の参考とするための作業歩掛を募集するものです。

2. 参考見積書提出の資格

- （1）水資源機構における令和7・8年度一般競争（指名競争）参加資格業者の認定を受けていることとします。
- （2）営業に関し法律上必要とされる資格を有していることとします。
- （3）水資源機構から「工事請負契約に係る指名停止等の措置要領」（平成6年5月31日付け6経契第443号）に基づき、利根川水系及び荒川水系関連区域において指名停止を受けていないこととします。

3. 参考見積書の提出等

参考見積書は、次に従い提出してください。

- （1）参考見積書は、作業項目毎に必要な技術者、資機材の人数等を記載して提出して下さい。なお、参考見積書の様式は添付のEXCEL様式（荒川ダム総合管理所ホームページよりダウンロードできます）を使用して下さい。
- （2）提出期間：令和8年10月13日（火）から令和8年10月23日（金）まで
持参する場合は、上記期間の土曜日、日曜日及び祝日を除く毎日、
9時から16時まで
- （3）提出先
独立行政法人水資源機構荒川ダム総合管理所 所長 山中 充治 宛
【担当】総務課 佐古田
〒369-1801 埼玉県秩父市荒川久那 4041
TEL 0494-23-1431 FAX 0494-23-7912
電子メールアドレス：nyukei_arakawa@water.go.jp

（4）提出方法

書面は持参、電子メール、郵送又はファクシミリ（社印があること）により提出するものとします。

※押印は「本件責任者及び担当者」の氏名及び連絡先を明記することで省略することができます。

4. 参考見積内容

(1) 業務基本条件

浦山ダムにおける管理施設（清水バイパス、副ダム管理用道路）の補修設計。

(2) 業務作業項目、作業内容

別紙の「参考見積仕様書」のとおりとします。

(3) 業務費の構成と歩掛見積徴取範囲

① 本歩掛参考見積を適用する業務費の構成は、当機構が別に制定する「積算基準及び積算資料（各編）」（以下「基準書」という。）によるものとします。

② 歩掛参考見積徴取範囲は基準書で定義されている直接人件費のうち、上記（２）「業務作業項目、作業内容及び作業数量」を実施する為に必要な技術者、資機材の人数等を徴取します。

(4) 技術者の職種と定義

国土交通省が公表している「令和８年度設計業務委託等技術者単価」における「技術者の職種区分定義」によるものとします。

5. 募集要領に対する質問

この募集要領に対する質問がある場合においては、次に従い、書面（様式は自由）により提出してください。

(1) 提出期間：令和８年１０月１３日（火）から令和８年１０月１６日（金）まで
持参する場合は、上記期間の土曜日、日曜日及び祝日を除く毎日、９時から１６時まで

(2) 提出場所：３．（３）に同じ。

(3) 提出方法：３．（４）に同じ。

6. 質問に対する回答

質問に対する回答書は、次のとおり閲覧に供します。

(1) 閲覧期間：令和８年１０月２０日（火）から令和８年１０月２３日（金）まで

(2) 閲覧方法：荒川ダム総合管理所ホームページに掲載します。

7. 参考見積条件

有効期限：令和１０年３月３１日

8. 参考見積書作成及び提出に要する費用

参考見積提出者の負担とします。

9. ヒアリング

提出していただいた参考見積書についてヒアリングを実施することがあります。

10. その他

この参考見積書をご提出いただいたことで、業務の指名又は競争参加資格をお約束するものではありません。

ご提出いただいた参考見積書は、業務積算の目的以外には使用いたしません。

参考見積仕様書

件名：浦山ダム清水バイパス補修設計業務（仮称）

第1節 業務目的

本業務は、浦山ダム清水バイパスについて、老朽化等に伴い補修が必要となっている取水堰及び巻コンクリート管路の補修設計を行うものである。

第2節 業務内容

2-1 設計計画

業務目的、検討条件及び業務内容を把握したうえで、共通仕様書第1章第12節に基づき、業務計画書を作成するものとする。

2-2 現地踏査

清水バイパス取水堰及び巻コンクリート管部の補修箇所について、周辺状況、地形、地質、周辺構造物等を把握・確認するとともに、補修等の設計に必要な現地踏査を行うものとする。

2-3 取水堰補修設計

（1）取水堰補修設計

現地踏査結果及び損傷状況資料等に基づき、取水堰の越流部（水叩き含む）、護床工の補修設計を行うものとする。補修設計にあたっては、施工性、経済性、維持管理等も考慮した複数案の比較検討を行い、最適案について設計するものとする。

（2）巻コンクリート管部基礎補修設計

巻きコンクリート管部の基礎地盤が降雨等により洗掘されているため、洗掘箇所の補修設計を行うものとする。補修設計にあたっては、施工箇所が道路から離れているため、施工性を考慮した複数案の比較検討を行い、最適案について設計するものとする。

（3）設計図の作成

次表の設計図を作成するものとする。

設計図名称	縮 尺	備 考
平面図	1/500 又は 1/1,000	
縦断図	V=1/100 H=1/500	
標準断面図	1/100	
横断図	1/100	
構造一般図	1/50～1/100	

詳細図	1/10～1/30	
その他調査職員が指示する図面		

(4) 施工計画書の作成

経済的かつ合理的に工事を行うために必要な施工計画を作成するものとする。

(5) 数量計算

数量計算は、「土木工事数量算出要領（案）：国土交通省」により行うものとし、算出した結果は、「土木工事数量算出要領数量集計表（案）：国土交通省」に基づき、工種別にとりまとめるものとする。

なお、記載のないものは、調査職員が指示する方法によりとりまとめるものとする。

(6) 概算工事費算出

共通仕様書第2章第11節に基づき、概算工事費を算定するものとする。

(7) 照査

正確性、整合性等の照査を行うものとする。

(8) 報告書作成

業務の成果として作成した成果をとりまとめ、報告書を作成するものとする。また、成果の概要を抽出・整理した業務概要書を作成するものとする。

以 上

清水バイパス 取水堰損傷状況



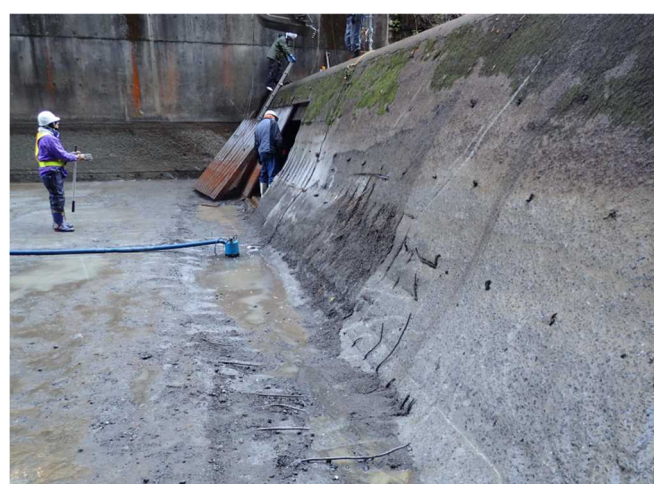
出水時に取水堰からの越流状況



取水堰洗掘箇所全景



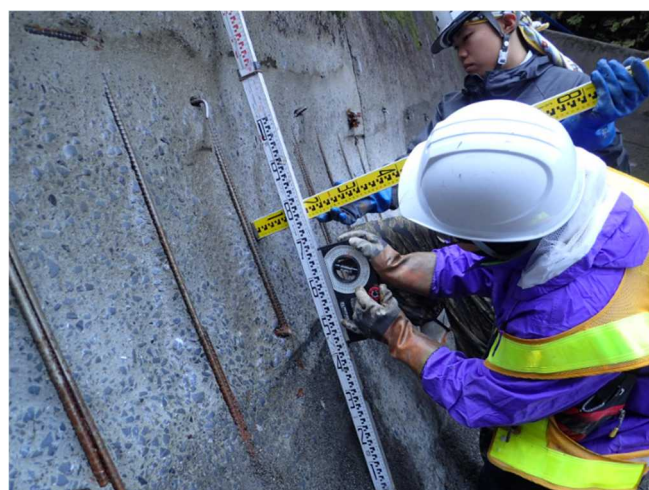
コンクリート磨耗状況



コンクリート磨耗状況

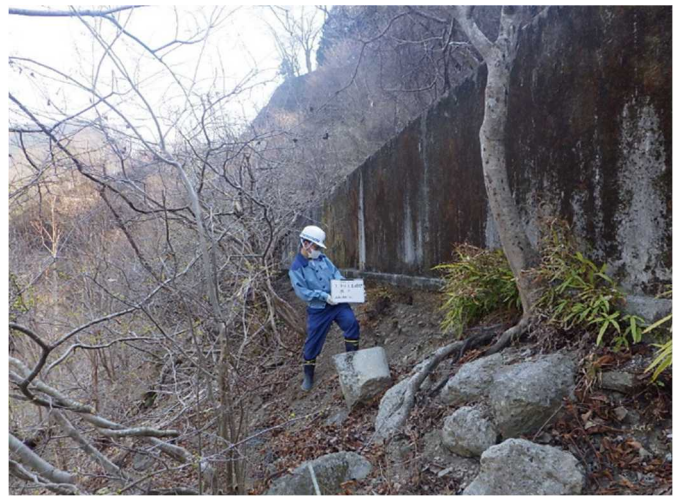


護床ブロックの損傷



コンクリート磨耗状況（最大約 10cm 磨耗）

清水バイパス（巻コンクリート部基礎状況） No. 60～64

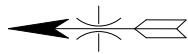


浦山ダム清水バイパス補修設計業務（仮称）

令和 8年 10月

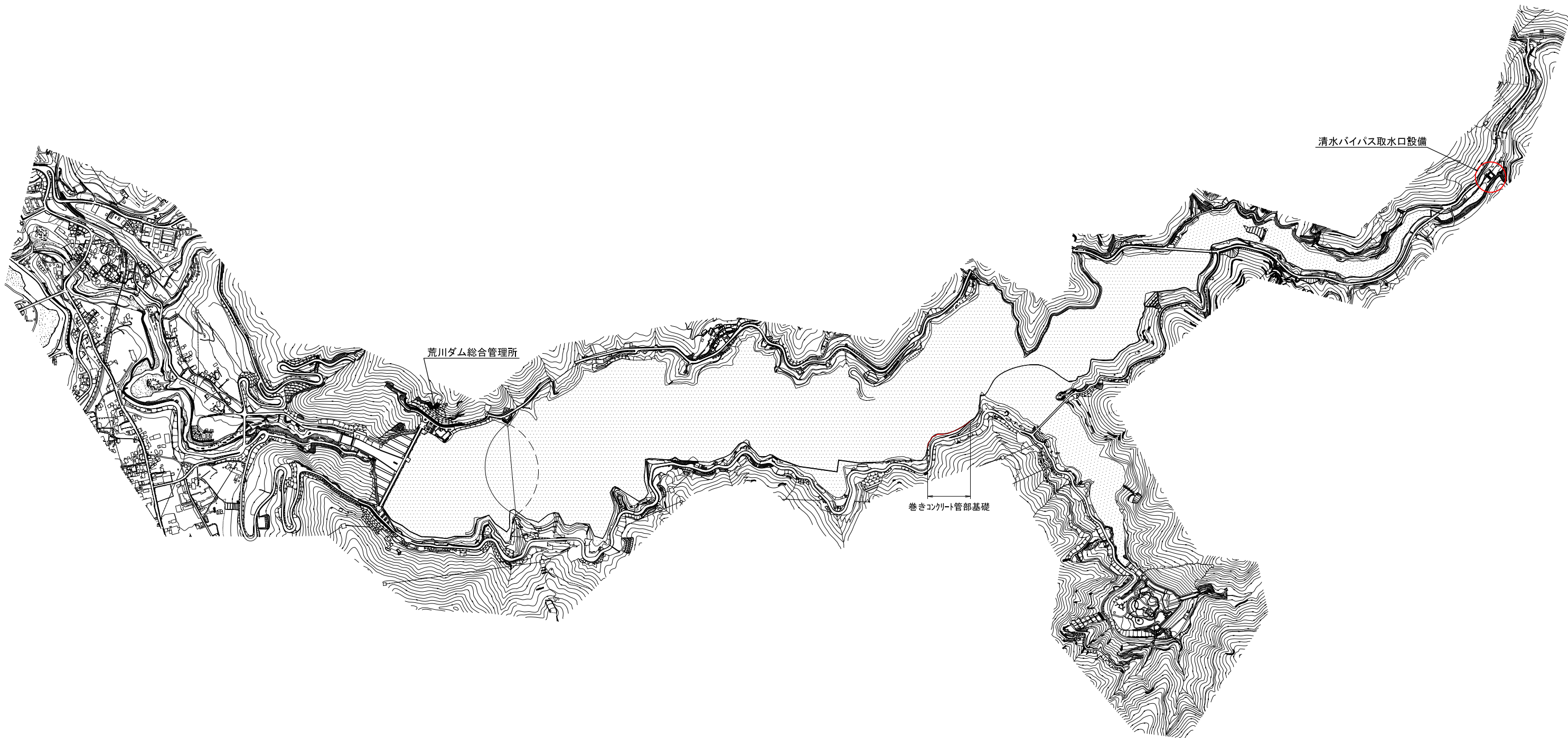
独立行政法人水資源機構

荒川ダム総合管理所



浦山ダム平面図

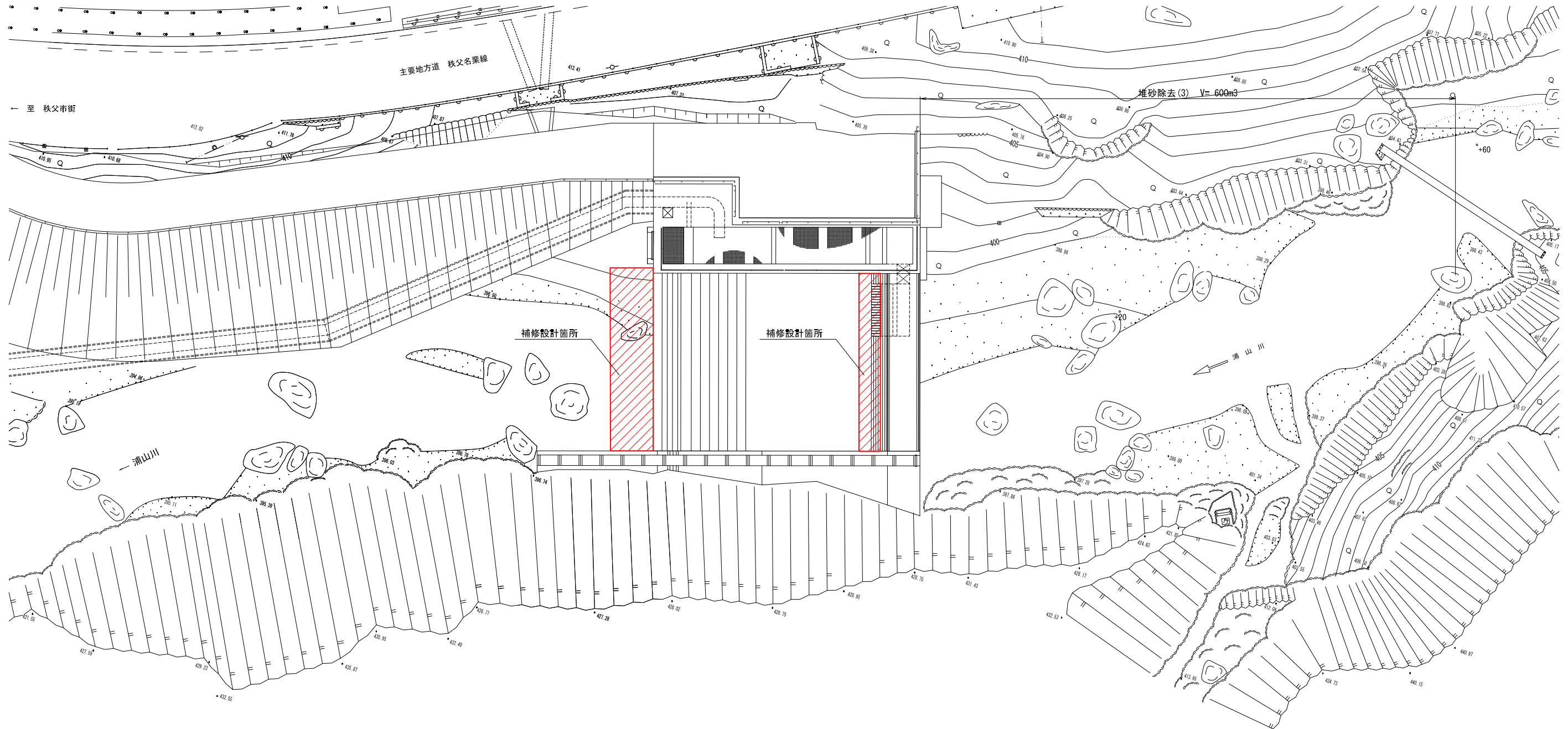
S=1:7,500



工事名 浦山ダム清水バイパス補修設計業務(仮称)	
名称	浦山ダム平面図
登録番号	縮尺 S=1:7,500
整理番号	1/4
独立行政法人水資源機構 荒川ダム総合管理所	

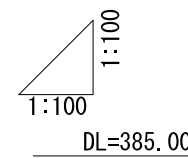
取水設備 平面図

S=1:200



工事名 浦山ダム清水バイパス補修設計業務(仮称)	
名 称	
取水設備 平面図	
縮尺 1:200	
登録番号	整理番号 2/4
独立行政法人水資源機構 荒川ダム総合管理所	

S=1:100

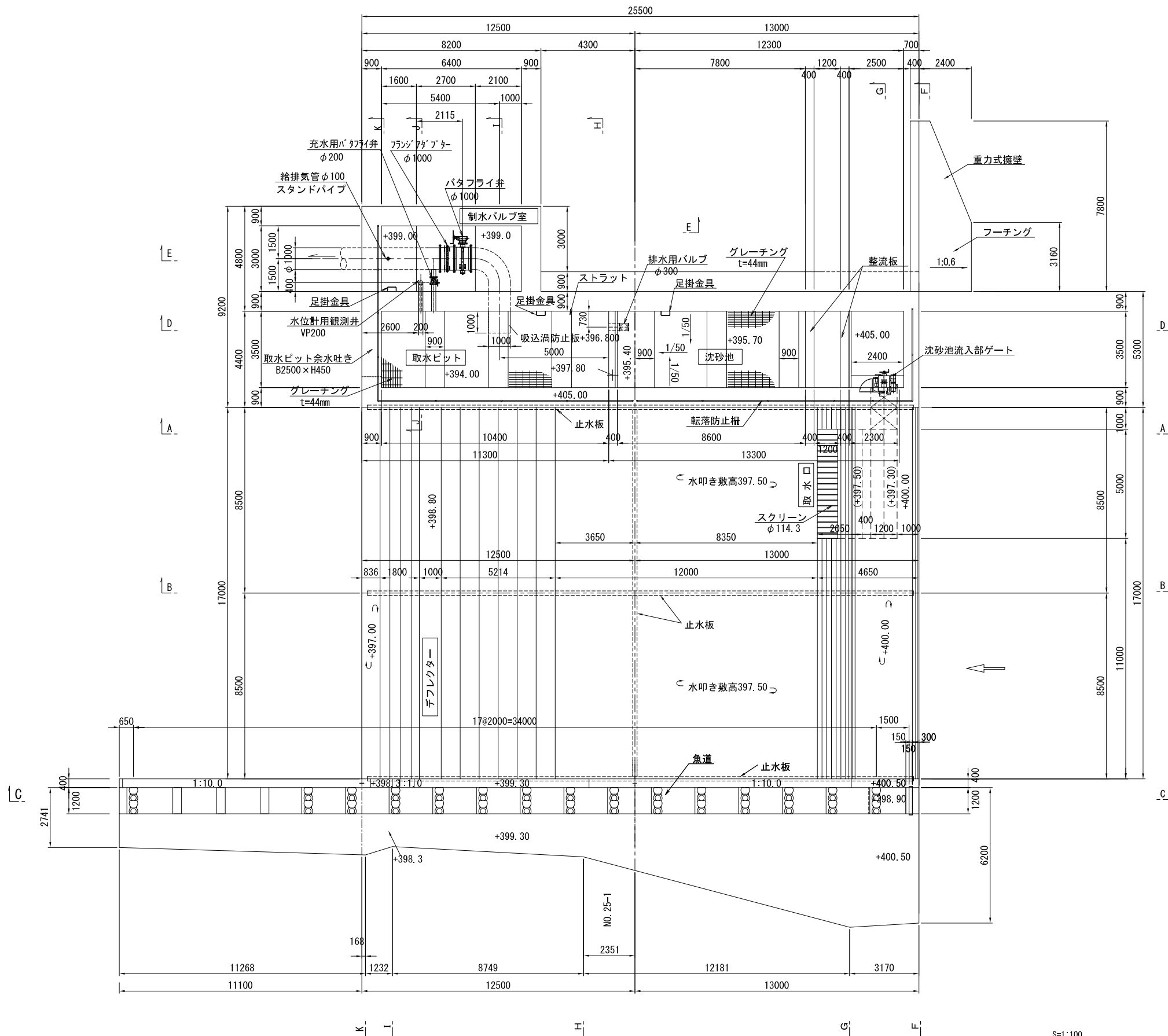


現 況					計 画			
測 点	単距離	追加距離	軸盤高	河床高	河床勾配床高	切 土	盛 土	勾 配
N024-1	10.0	270.0	396.02	395.92				
N025	10.0	280.0	395.70	395.60	397.00		0.25	
N025-1	20.0	300.0	396.82	396.32	397.50	0.63		
N025-2	20.0	320.0	397.14	396.57	397.50	0.57		

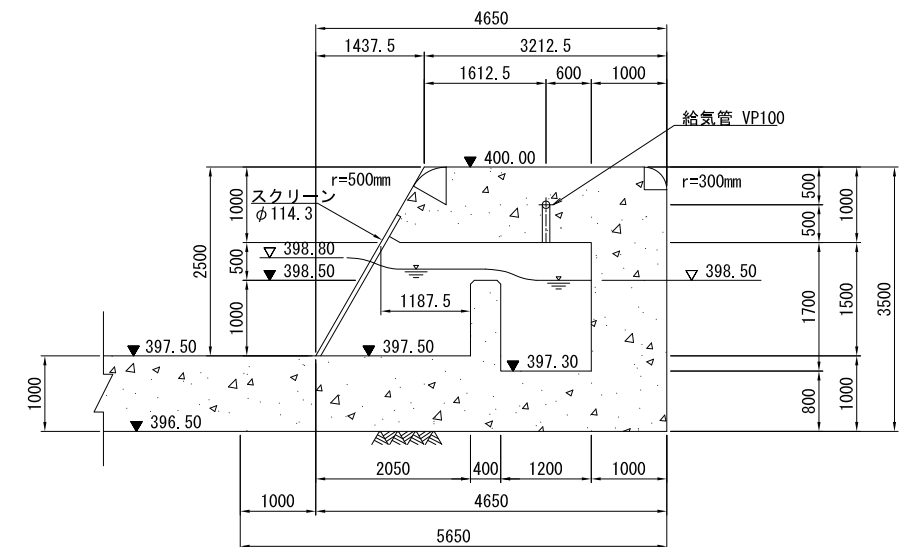
工事名 浦山ダム清水バイパス補修設計業務(仮称)	
名 称 取水設備 縦断面図	
縮尺 1:100	
登録番号	整理番号 3/4
独立行政法人水資源機構 荒川ダム総合管理所	

取水設備構造図

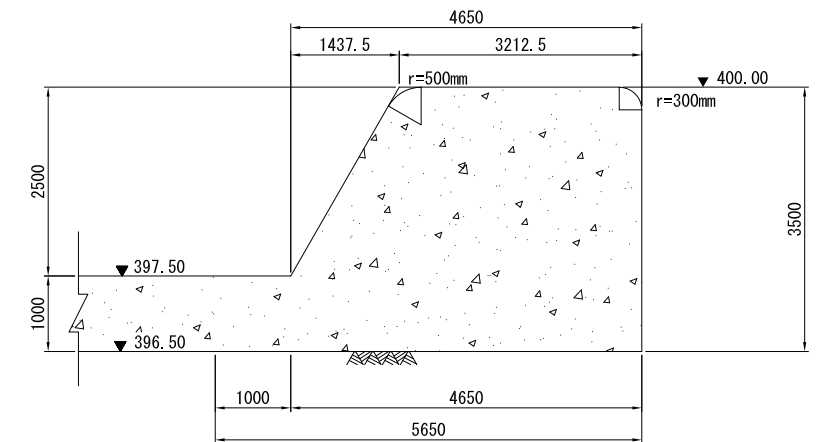
平面图 S=1:100



取水口詳細図 S=1:50



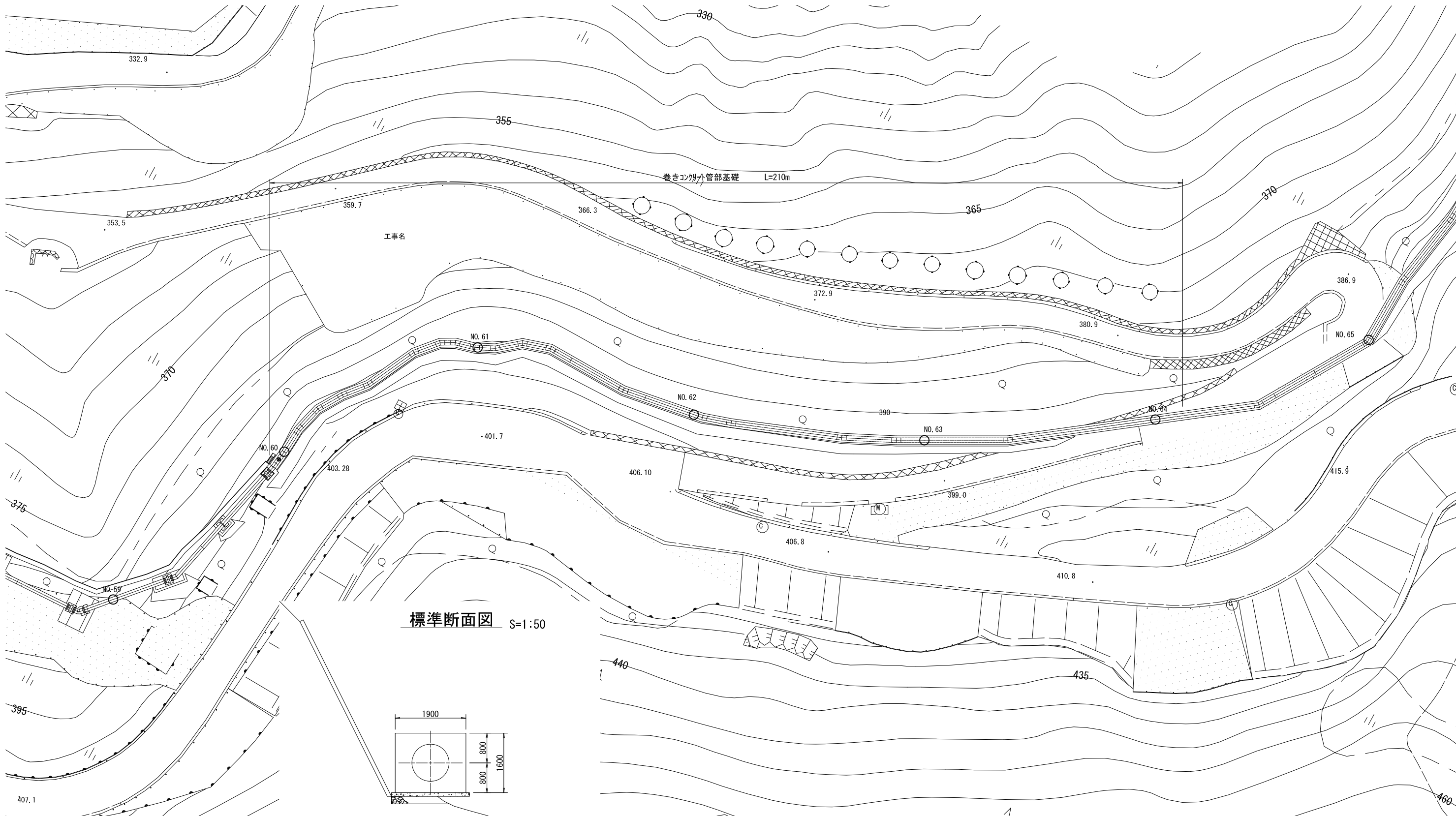
越流堰詳細図 S=1:50



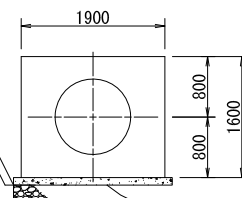
工事名 浦山ダム清水バイパス補修設計業務(仮称)			
名 称			
取水設備構造図			
登録番号		縮尺	図 示
		整理番号	4/5
独立行政法人水資源機構 荒川ダム総合管理所			

管水路一般図

平面図 S=1:400



標準断面図 S=1:50



S=1:50
0m 1m 3m

S=1:400
0m 10m 50m

工事名	浦山ダム清水バイパス補修設計業務(仮称)		
名称	管水路一般図		
登録番号	整理番号	4/4	縮尺 S=1:400
独立行政法人 水資源機構 荒川ダム総合管理所			

参考見積仕様書

件名：浦山ダム副ダム管理用道路補修設計業務（仮称）

第1節 業務目的

本業務は、浦山ダムの副ダム管理用道路に施工されている仮設の大型土のうの設置箇所について、現地状況を踏まえた擁壁の補修設計を行うものである。

第2節 業務内容

2-1 設計計画

業務目的、検討条件及び業務内容を把握したうえで、共通仕様書第1章第12節に基づき、業務計画書を作成するものとする。

2-2 現地踏査

副ダム管理用道路に施工されている仮設の大型土のうの補修箇所について、周辺状況、地形、地質、周辺構造物等を把握・確認するとともに、補修等の設計に必要な現地踏査を行うものとする。

2-3 擁壁補修設計

（1）擁壁補修設計

現地踏査結果等に基づき、擁壁の補修設計を行うものとする。補修設計にあたっては、施工性、経済性、維持管理等も考慮した複数案の比較検討を行い、最適案について設計するものとする。

（3）設計図の作成

次表の設計図を作成するものとする。

設計図名称	縮 尺	備 考
平面図	1/500 又は 1/1,000	
縦断図	V=1/100 H=1/500	
標準断面図	1/100	
横断図	1/100	
構造一般図	1/50～1/100	
詳細図	1/10～1/30	
その他調査職員が指示する図面		

（4）施工計画書の作成

経済的かつ合理的に工事を行うために必要な施工計画を作成するものとする。

(5) 数量計算

数量計算は、「土木工事数量算出要領（案）：国土交通省」により行うものとし、算出した結果は、「土木工事数量算出要領数量集計表（案）：国土交通省」に基づき、工種別にとりまとめるものとする。

なお、記載のないものは、調査職員が指示する方法によりとりまとめるものとする。

(6) 概算工事費算出

共通仕様書第2章第11節に基づき、概算工事費を算定するものとする。

(7) 照査

正確性、整合性等の照査を行うものとする。

(8) 報告書作成

業務の成果として作成した成果をとりまとめ、報告書を作成するものとする。また、成果の概要を抽出・整理した業務概要書を作成するものとする。

以 上

副ダム管理用道路擁壁補修設計箇所状況



着工前



大型土のう施工後



大型土のう設置状況（現況）



大型土のう設置前の基礎地盤状況



大型土のう設置状況（現況）



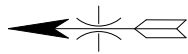
大型土のう設置前の基礎地盤状況

浦山ダム副ダム管理用道路補修設計業務（仮称）

令和 8年 10月

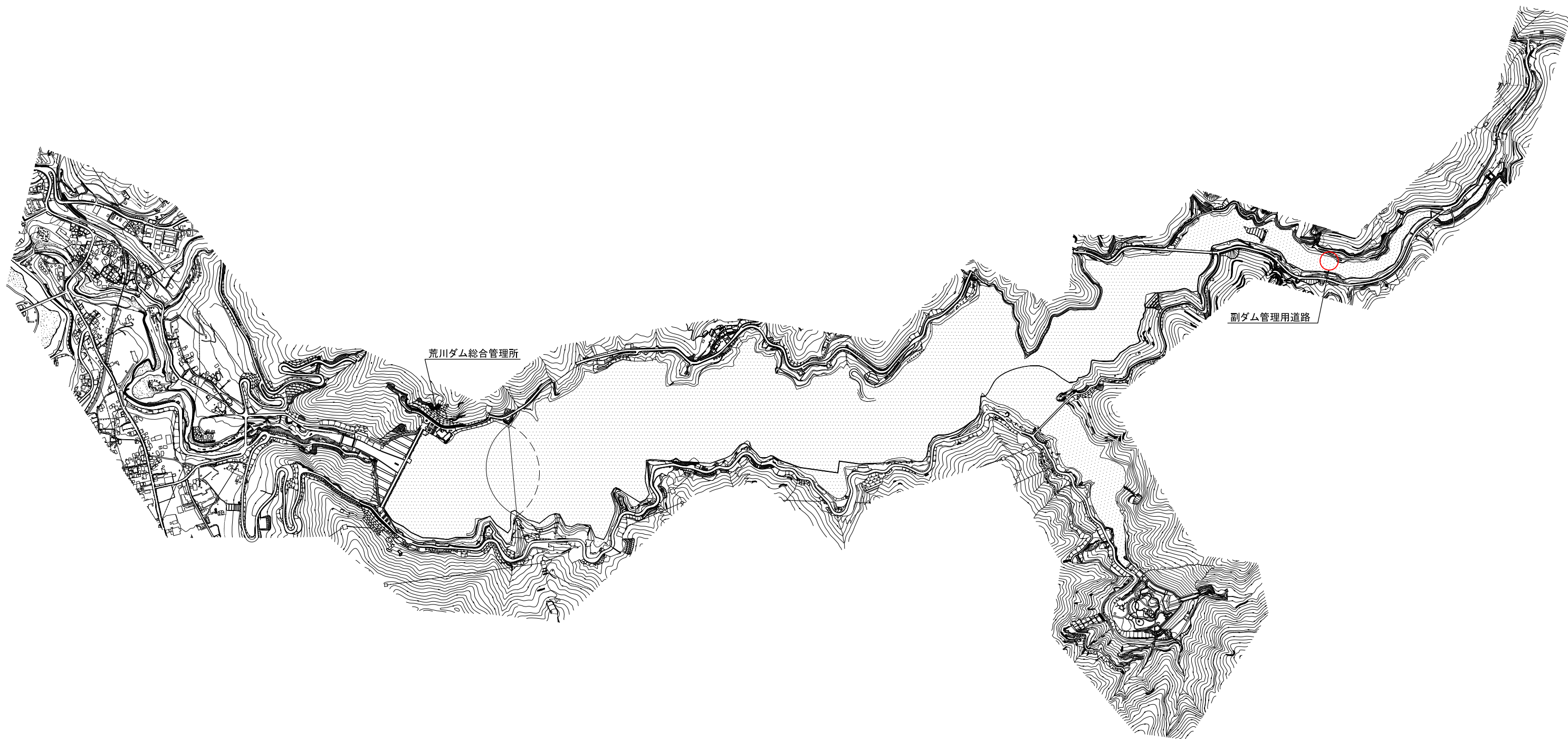
独立行政法人水資源機構

荒川ダム総合管理所



浦山ダム平面図

S=1:7,500

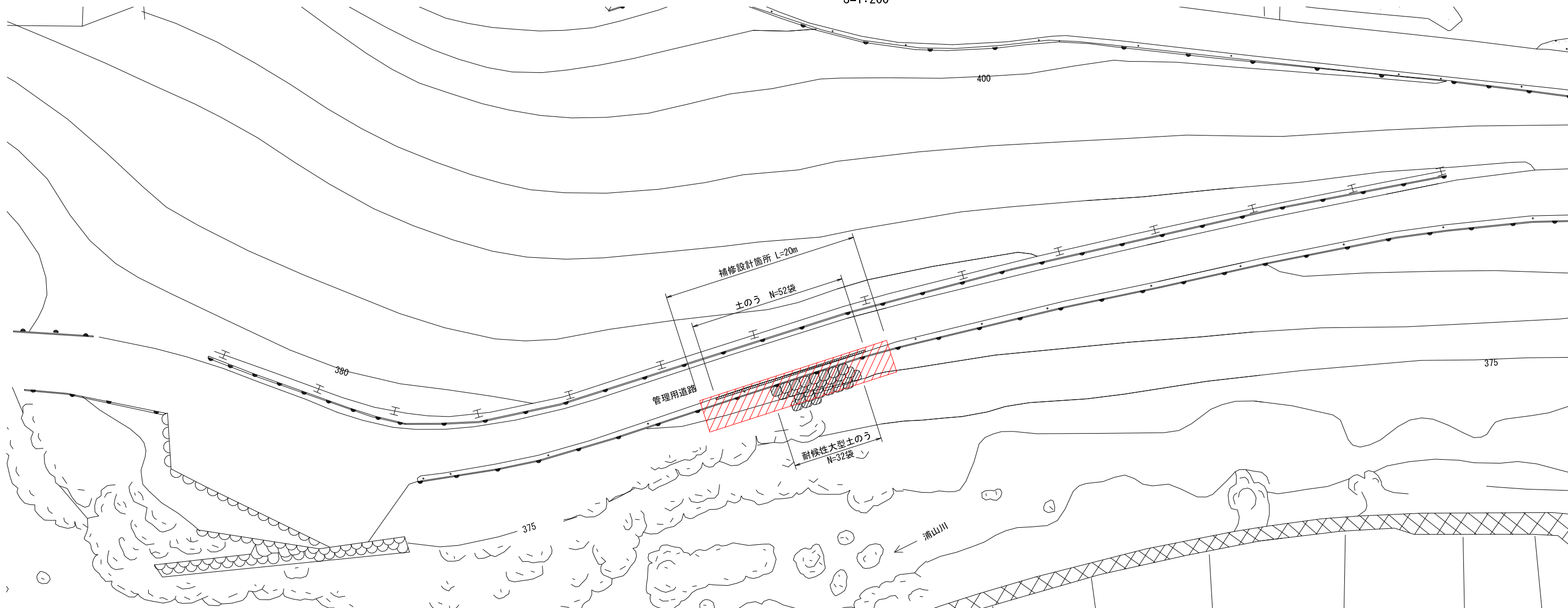


工 事 名	浦山ダム副ダム管理用道路補修設計業務(仮称)		
名 称	浦山ダム平面図		縮 尺 S=1:7.50
登録番号	整理番号	1／2	
独立行政法人水資源機構 荒川ダム総合管理所			

平面図及び標準断面図

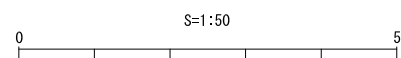
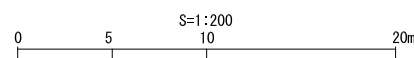
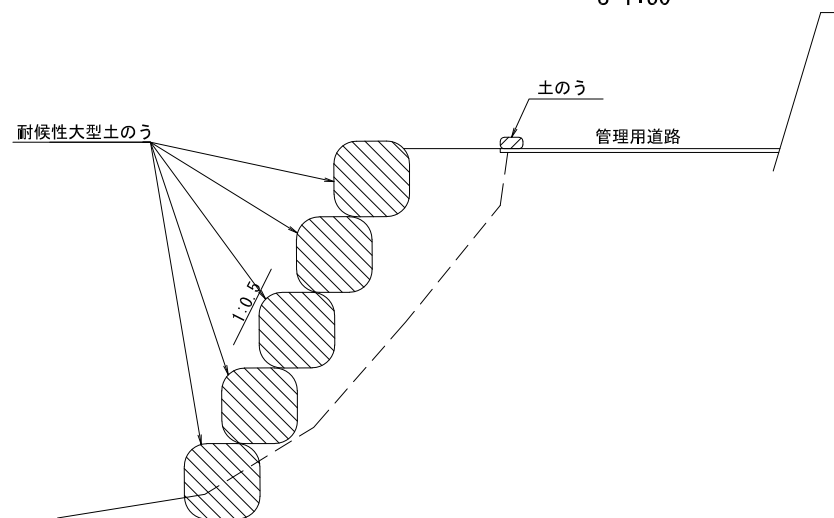
平面図

S=1:200



標準断面図

S=1:50



工事名	浦山ダム副ダム管理用道路補修設計業務(仮称)		
名 称	平面図及び標準断面図		
登録番号	整理番号	縮尺	S=1:1,000
		2/2	
独立行政法人水資源機構 荒川ダム総合管理所			

歩掛参考見積書

件 名 浦山ダム清水バイパス補修設計業務(仮称)

名 称	主任技術者	技師長	主任技師	技師(A)	技師(B)	技師(C)	技術員	備 考
設計計画								
現地踏査								現場内移動費含む
取水堰補修設計								
巻コンクリート部管路基礎補修設計								
設計図の作成								
施工計画書の作成								
数量計算								
概算工事費算出								
照査								
報告書作成								

※ 1)各項目において、直接人件費の人数を記入して下さい。

2)現地踏査に必要な移動手段の費用及び点検等に必要な機械費用は、労務費に含めて計上して下さい。

なお、上表は記入例であり、この他に必要な項目等がある場合は、適宜変更または追加してください。

歩掛参考見積書

件 名 浦山ダム副ダム管理用道路補修設計業務(仮称)

名 称	主任技術者	技師長	主任技師	技師(A)	技師(B)	技師(C)	技術員	備 考
設計計画								
現地踏査								
擁壁補修設計								
設計図の作成								
施工計画書の作成								
数量計算								
概算工事費算出								
照査								
報告書作成								

※ 1)各項目において、直接人件費の人数を記入して下さい。

2)現地踏査に必要な移動手段の費用及び点検等に必要な機械費用は、労務費に含めて計上して下さい。

なお、上表は記入例であり、この他に必要な項目等がある場合は、適宜変更または追加してください。